



あったか通信 3月号

今年度も残りわずかとなりました。園児とのふれあいのひとコマを紹介してきました「あったか通信」を読み返しますと、子どもたちの言動の中に純粋な心とやわらかな感性の育ちを感じます。この感性は、当園の掲げる保育目標のひとつである「みんなと仲良くすることができる子ども」の力のみなもととなることでしょう。来年も新しいであいを楽しみにしています。

～年長組（らいおん、ぞう組）鼓隊の練習風景から～

去る2月11日（祝）に守山市民大ホールで、当園の音楽リズム発表会を行いました。練習を積み重ねるのを聴いていますと、日々リズムが合ってきていることを感じて、それを園児に伝えようとしたときのこと・・・

園長：「みなさん、すばらしい太鼓の演奏ができてきました！よく頑張っていますね！（大きく〇を作りながら言うと）」

園児：「・・・・・・・・」

園長：「皆さん、鼓隊は楽しいですか？」

園児：「はい！」

園長：「しんどいなあ、と思う人？」

園児：「はい」

担任：「みんな、そんなこと、言ったらかなしいよ。」

園長：「音楽会大舞台楽しみですか？」

園児：「はい」

園長：「あと少しで発表会です。頑張ってくださいね！」

園児：「はい」

活動への取り組みの中ではそれぞれに、楽しみもしんどさもありますが、子どもらしい返事に苦笑。でも年長組ともなると人の気持ちを汲むことができるようになったのかなあ？と思いますと一生懸命に取り組む園児の姿に、何か胸が熱く「感動」をいただきました。あたたかさを受けその成長を心から喜びたいひとコマでした。

～正福寺参詣で寺前の小川の鯉を見ながら～

4歳女兒A：「たくさん鯉いる！何してやんのかなあ？」

園長：「川の中こども園みたいやね。誰が生徒か、先生か、探してみて？」

B児：「この鯉が先生やわ」

C児：「なんで先生ってわかるん？」

B児：「だって大きいし、赤い服着てるもん（緋鯉の意）」

D児：「そっかあ。あとの鯉は生徒やな」

E児：「みんな何してんの？」

A児：「川の中こども園の鯉見てるねん」

E児：「ふーん」（といいながら一緒にのぞく）

A児：「けんかしないように赤い服の先生鯉（緋鯉）が見てるで！」

園長：「鯉さんも、仲よくえさをもらってるねえ」

もうすぐそこに、春。小川の鯉ものがたり。子どもたちはこれからどんな物語をつづっていくのでしょうか。

